

大納言大伴卿の歌一首

二九九番

奥山おくやまの 菅すがの葉はしのぎ 降ふる雪ゆきの 消けなば惜をしけ
む 雨あめな降ふりそね

長屋王ながやのおほきみ、馬うまを奈良山ならやまに駐とめて作る歌二首

三〇〇番

佐保さほ過すぎて 奈良ならのたむけに 置おく幣ぬさは 妹いもを
目め離かれず 相見あひみしめとそ

三〇一番

岩いはが根ねの 二にじしき山やまを 越こえかねて 音ねには泣な
くとも 色いろに出いでめやも